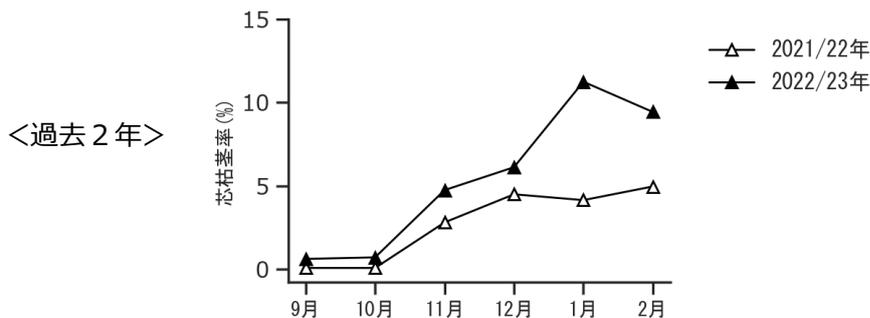
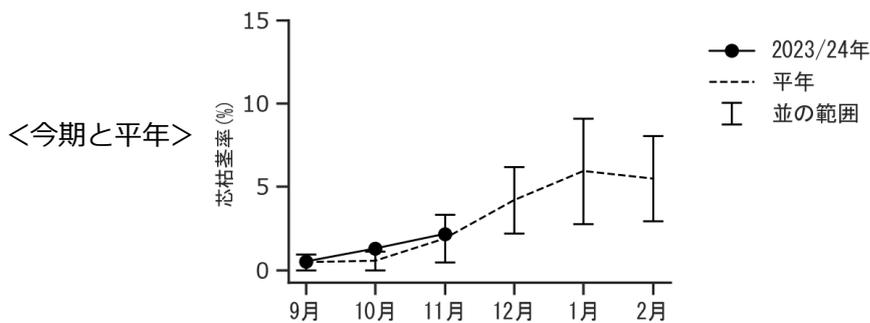


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：イネヨトウ,カンシャシクイハマキ
- ・発生ほ場率81.2% (平年：68.7%)

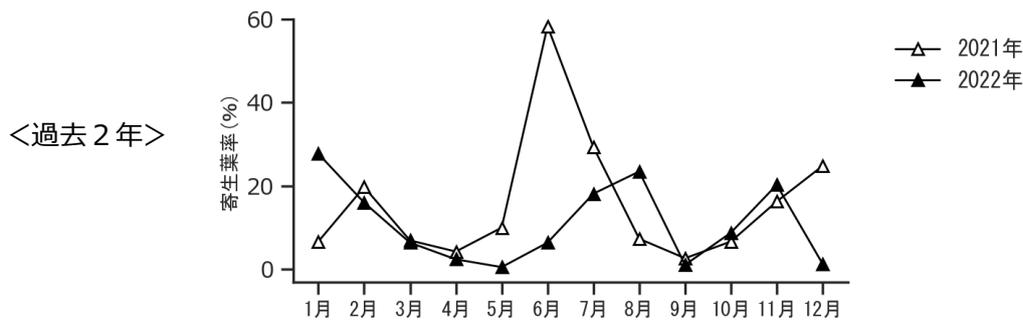
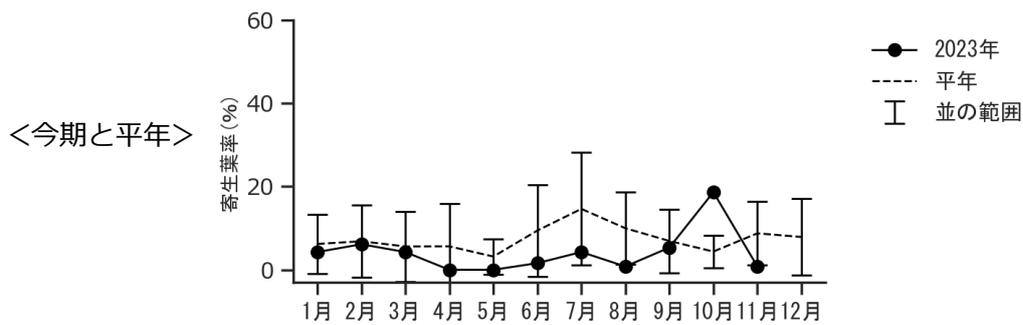
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			 <p>ミカンハダニ</p>
調査結果	11 月の発生量（平年比）	やや少		
予報	11 月からの増減傾向	→		
	12 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：57.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

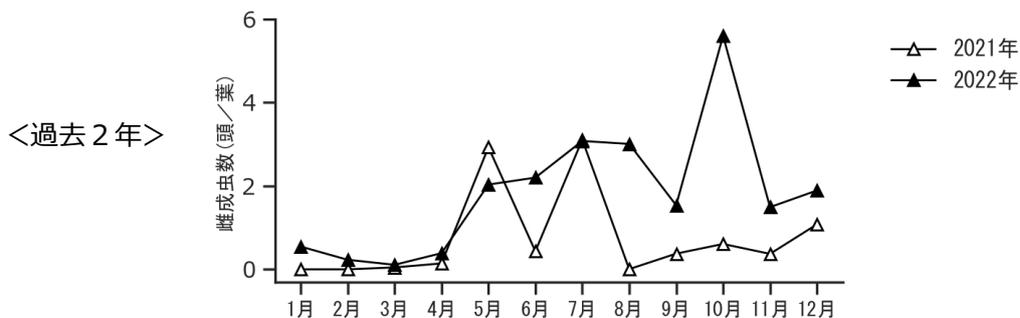
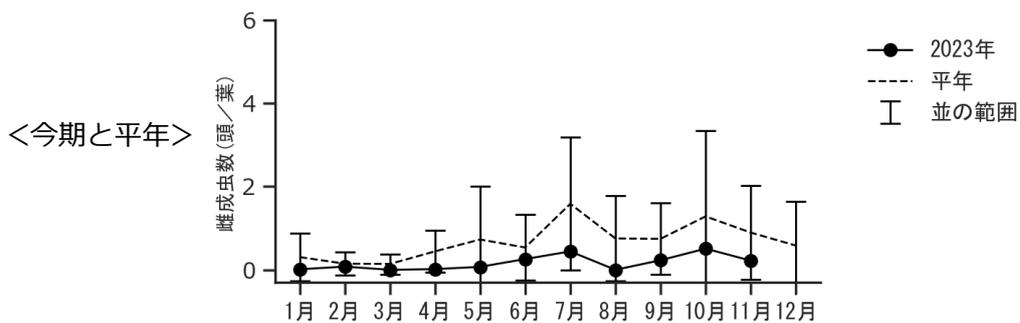


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↓		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率37.5% (平年：50.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

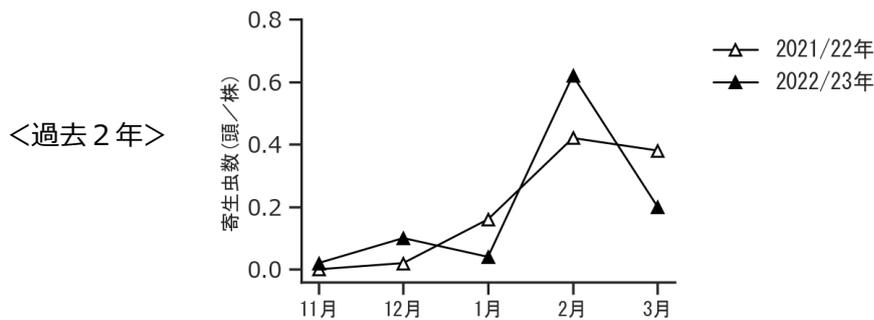
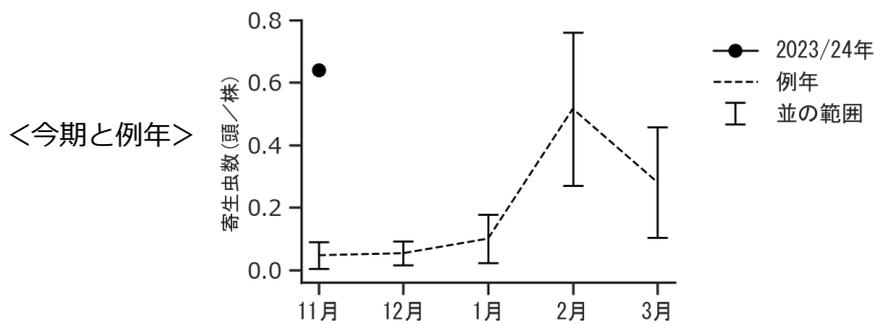


マンゴーツメハダニ

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① コナガ		
調査結果	11 月の発生量（例年比）	多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量（例年比）	多	
予報の根拠		例年の発生量の推移（→）	

調査結果

寄生虫数の推移



・発生ほ場率80.0%（例年：33.3%）

防除のポイント

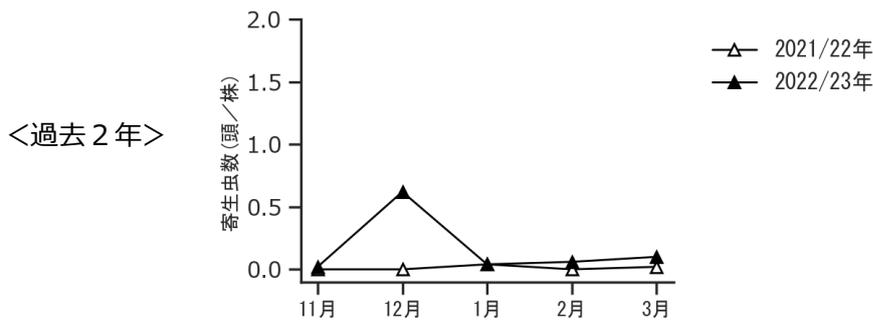
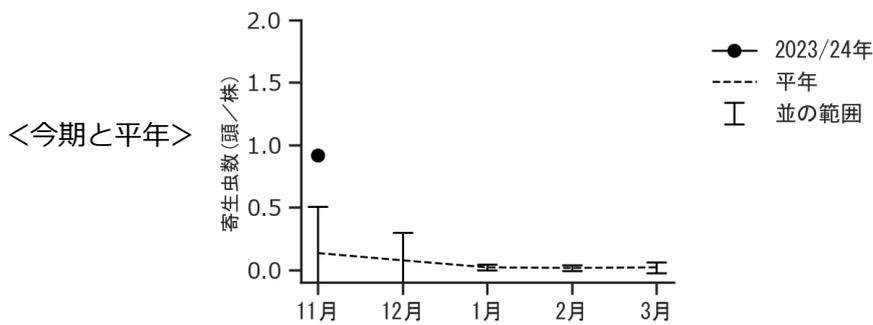
- ・発生源となりうるアブラナ科雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	↓	
	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	



調査結果

寄生虫数の推移



- ・発生種：モンシロチョウ、ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率60.0% (平年：26.0%)

防除のポイント

- ・発生源となりうる雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ハスモンヨトウ

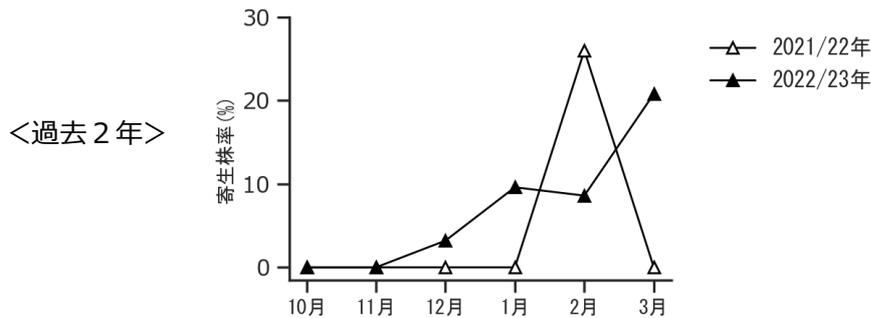
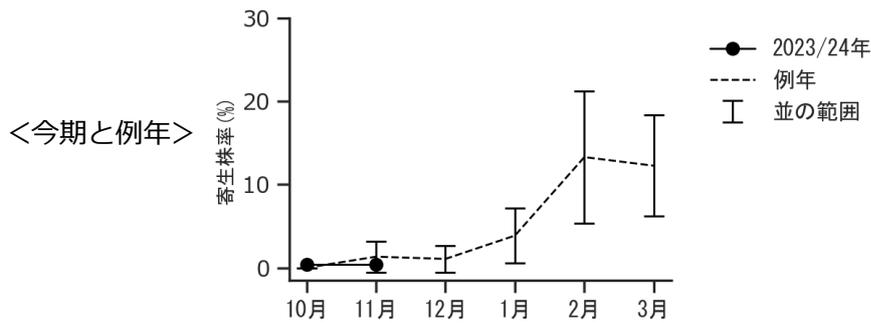


タマナギンウワバ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (例年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：台湾ヒゲナガアブラムシ
- ・発生ほ場率20.0% (例年：13.3%)

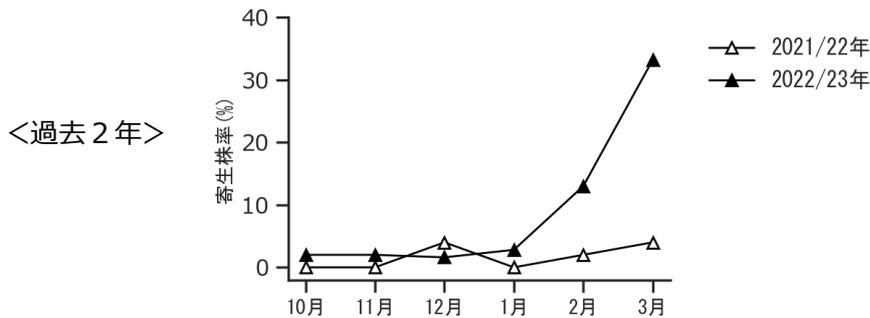
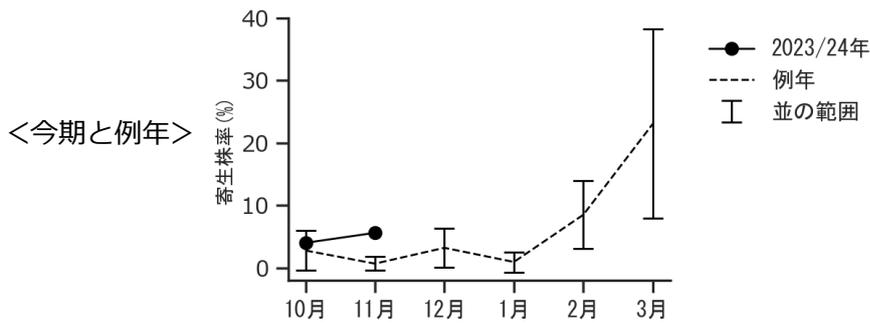
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	11 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	↗	
	12 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生株率の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率40.0% (例年：13.3%) 一部ほ場で多発

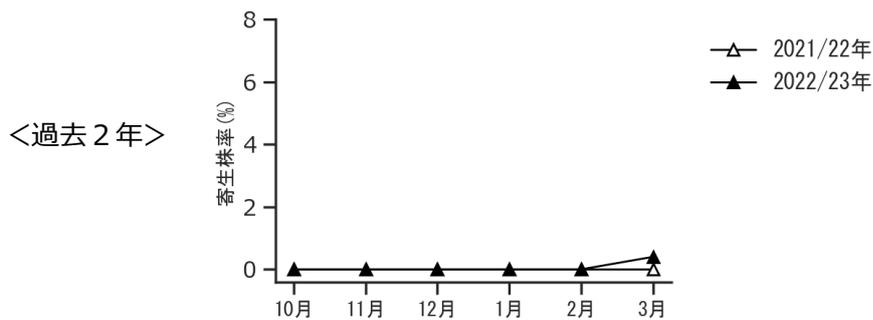
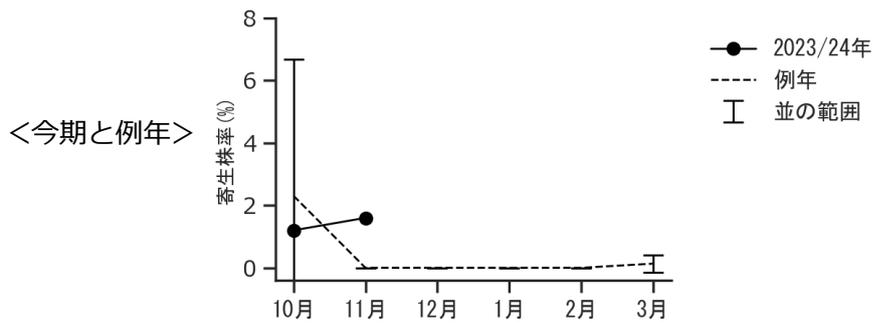
防除のポイント

- ・発生源となるほ場内外の雑草の除去に努める。
- ・植え付け時に粒剤を施用し、初期防除に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハスモンヨトウ		
調査結果	11 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生株率の推移



・発生ほ場率20.0% (例年：0%) 一部ほ場で多発

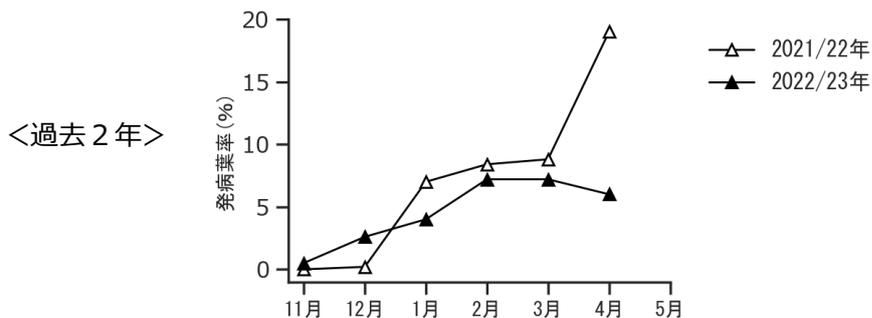
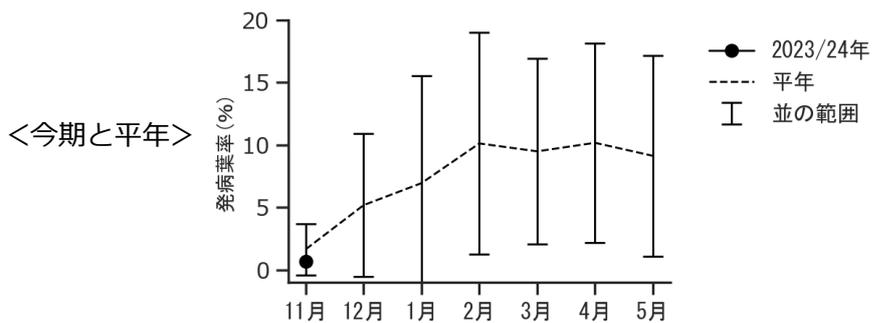
防除のポイント

- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 斑点病			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率33.3% (平年 : 28.9%)

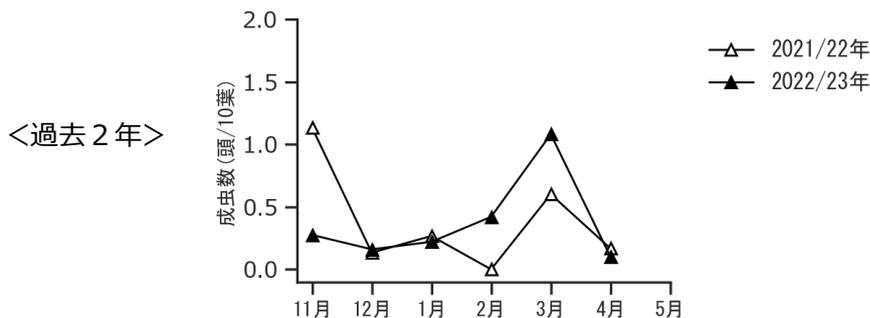
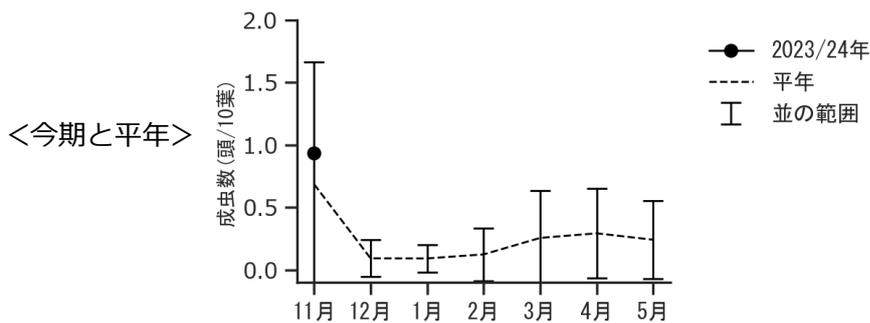
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↓		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 52.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

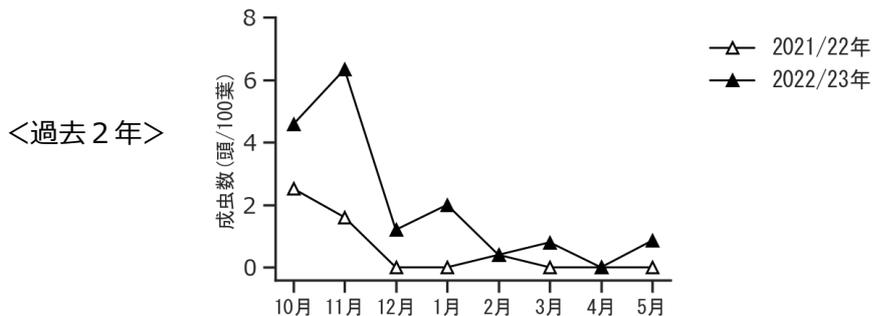
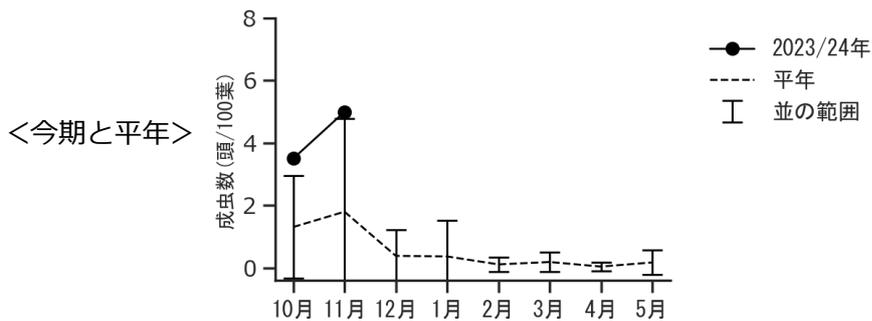


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	11 月からの増減傾向	↓		
	12 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年：17.6%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

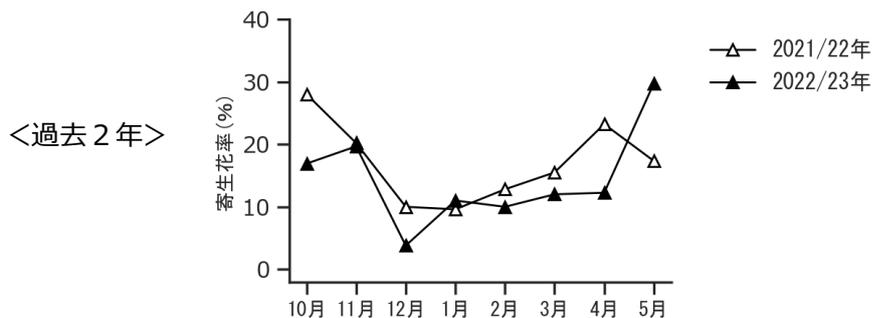
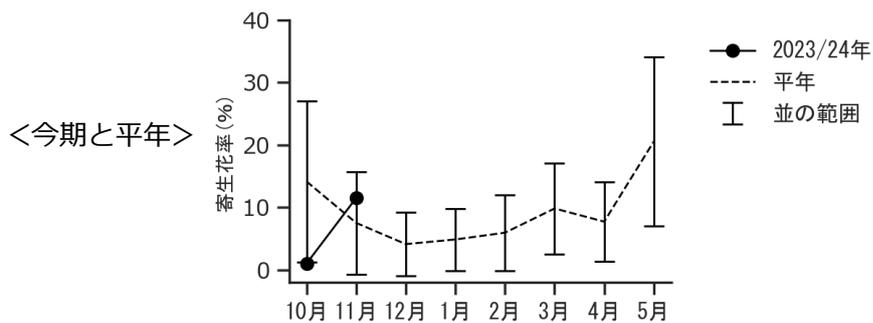


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↘		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率50.0% (平年 : 38.7%)

防除のポイント

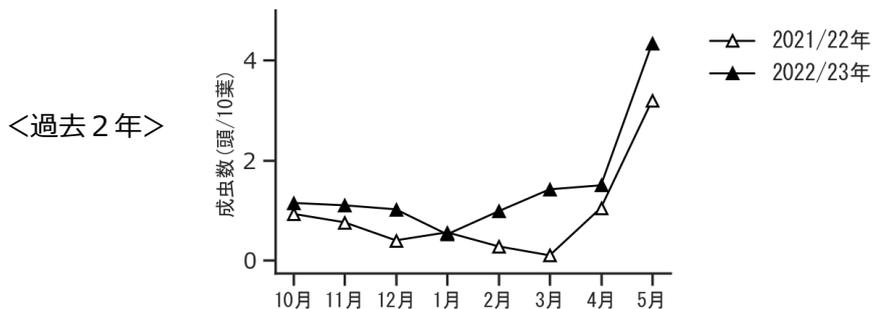
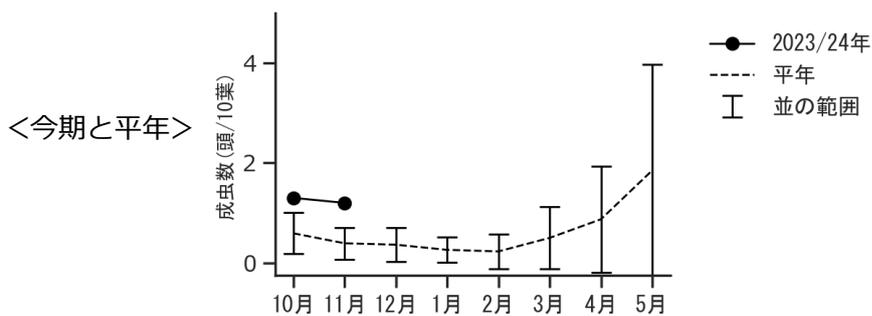
- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実ヘタ部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 49.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

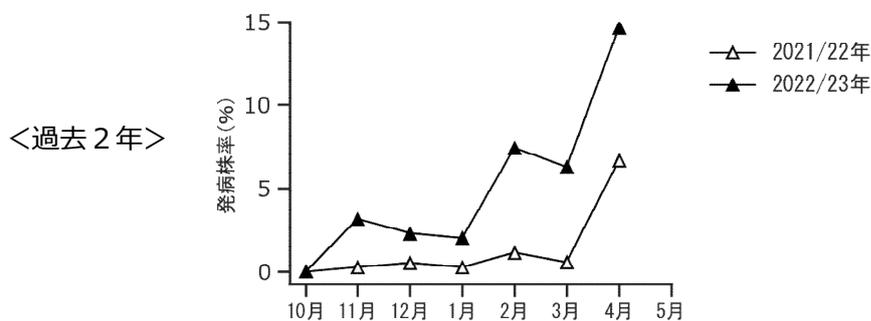
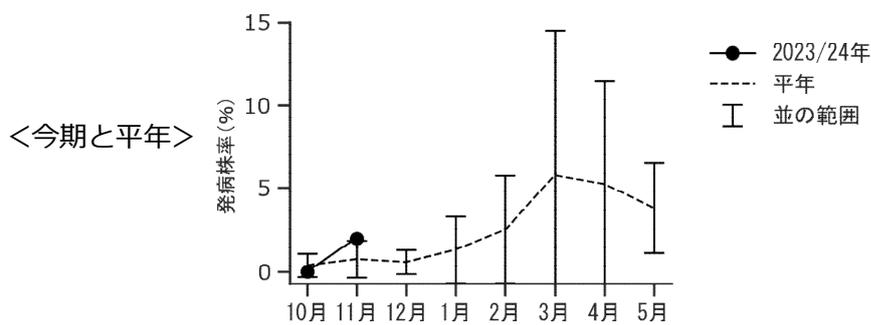


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	11 月からの増減傾向	→	
		12 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 20.0%)

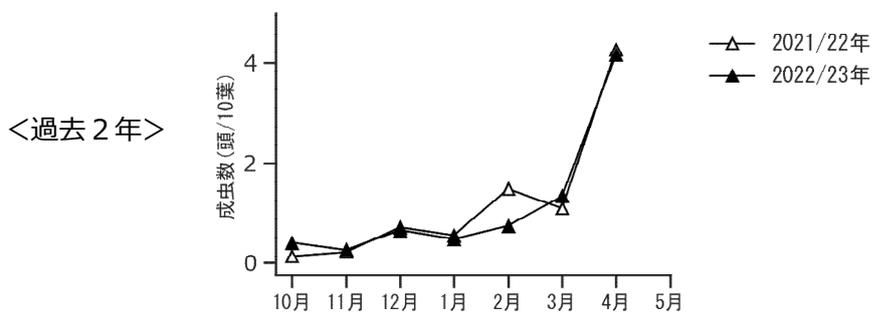
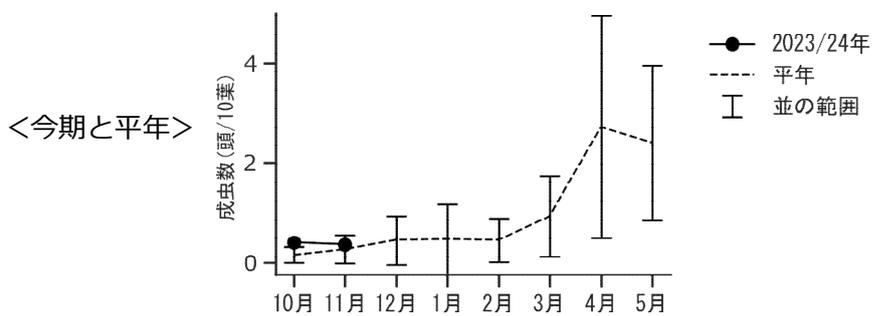
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノゲシ等の雑草除去に努める。
- ・罹病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	→	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年 : 45.7%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

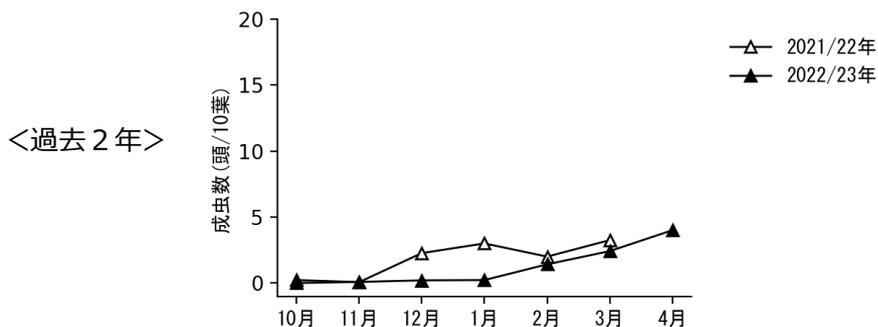
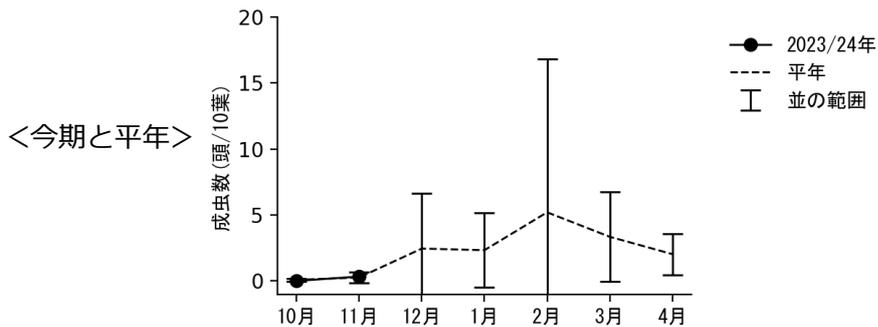


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↗		
	12 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 20.0%)

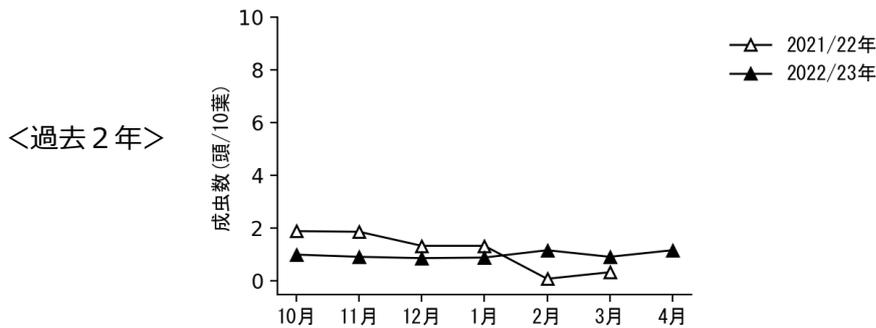
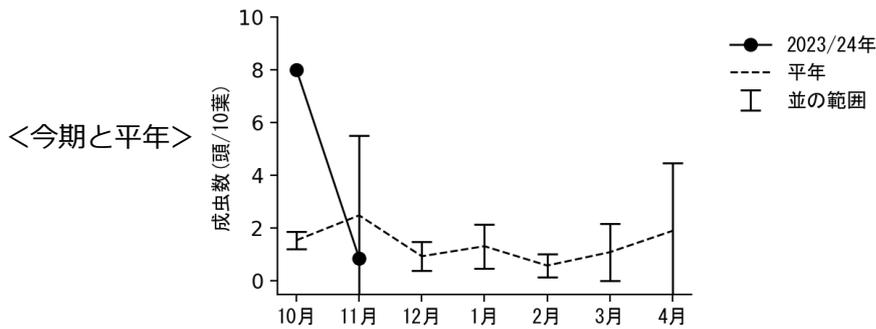
防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報	11 月からの増減傾向	↓		
	12 月の発生量 (平年比)	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

成虫数の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 76.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系薬剤等も利用する。

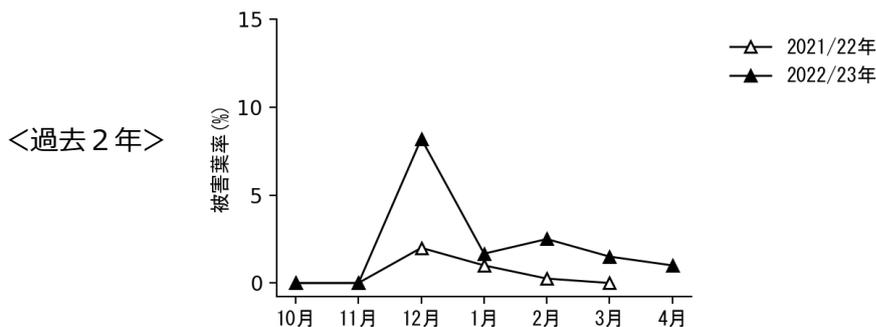
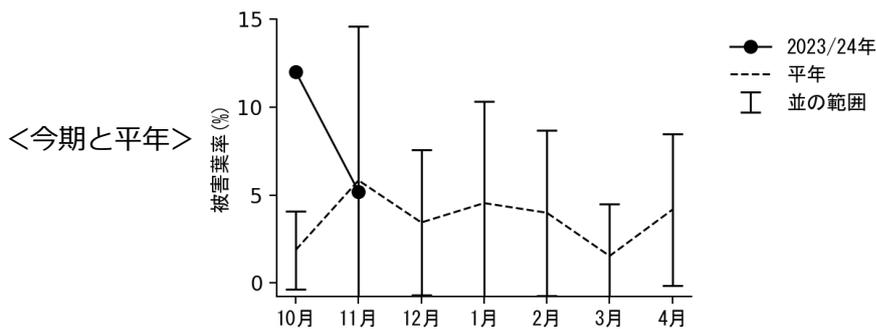


幼虫

作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハモグリバエ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	↓	
	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

被害葉率の推移



・発生ほ場率60.0% (平年 : 59.0%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・野外に多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

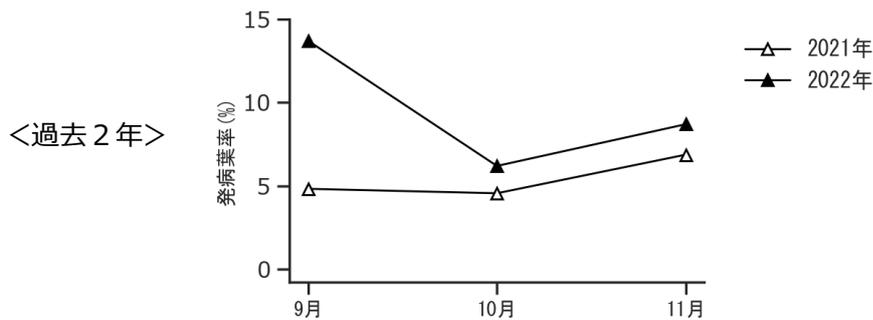
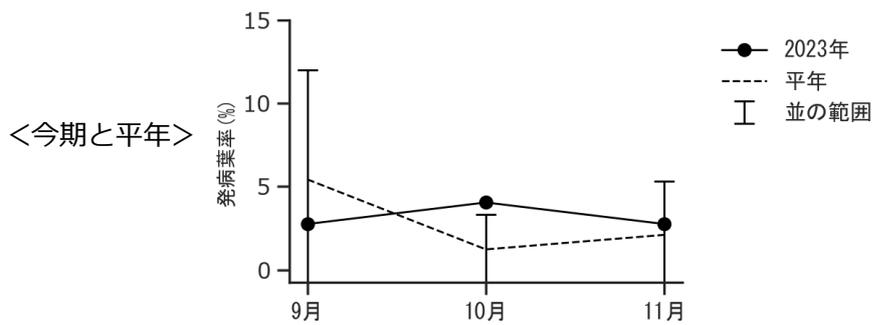


被害葉

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予 報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率50.0%（平年：20.6%）

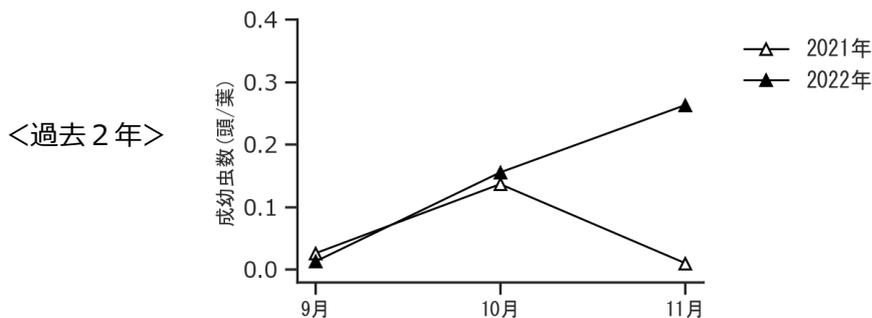
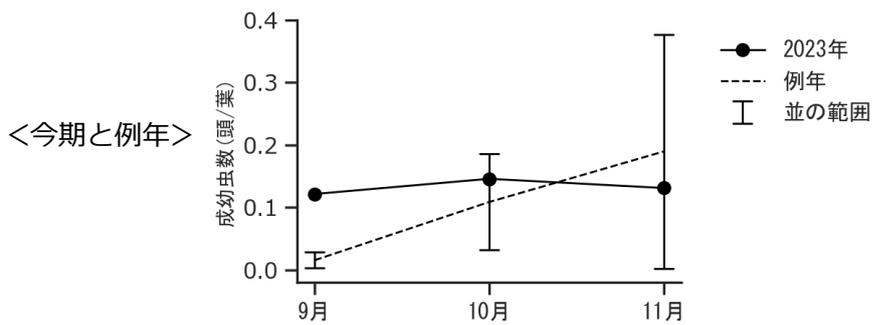
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草やマルチ等を行う。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生を助長するため、施肥管理を適正に行う。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	11 月の発生量 (例年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率100% (例年：72.0%)

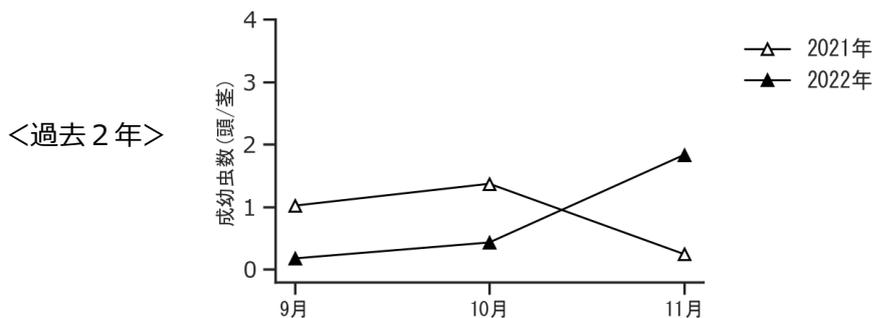
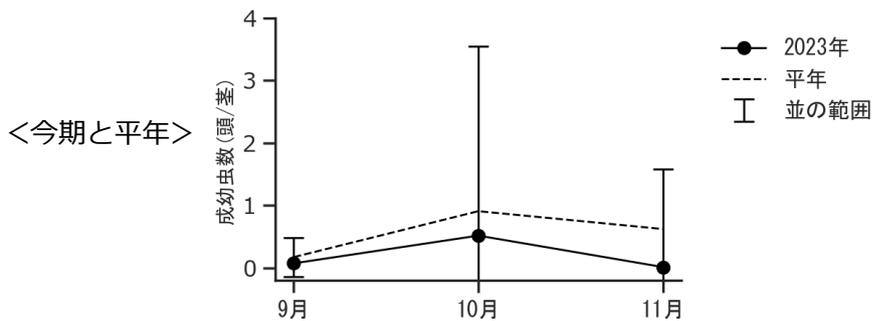
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率37.5% (平年：35.5%)

防除のポイント

- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連続使用を避け、ローテーション散布を行う。

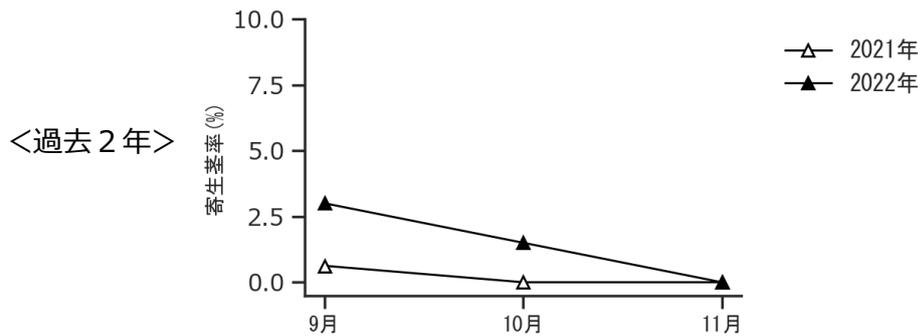
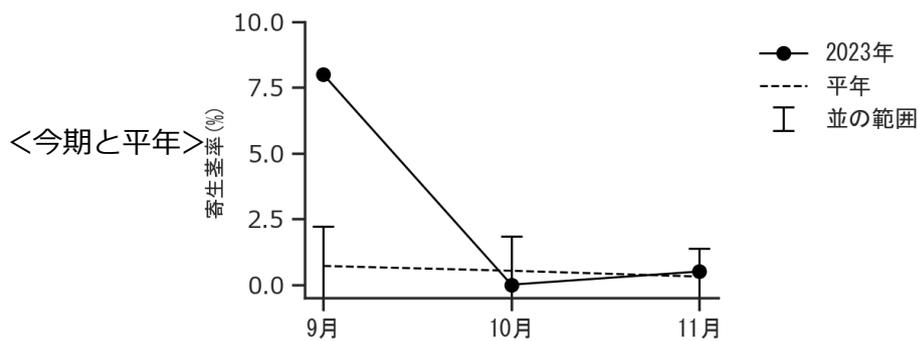


寄生の様子

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

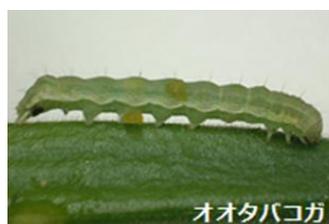
寄生茎率の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率12.5%（平年：3.8%）

防除のポイント

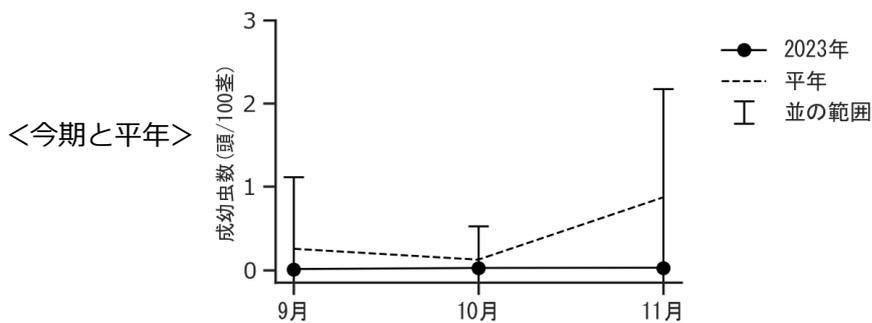
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



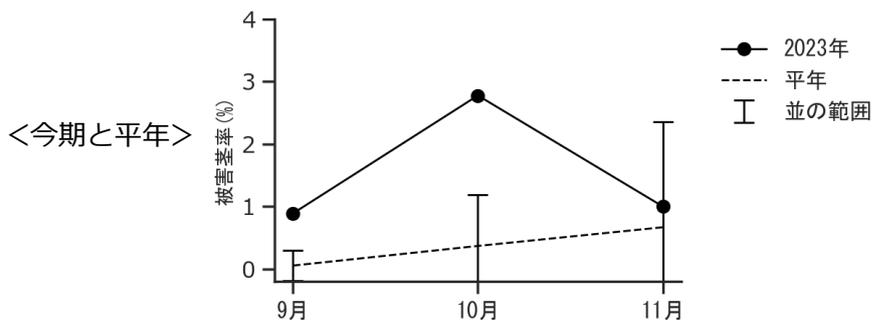
作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
調査結果	11 月の発生量（平年比）	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率50.0%（平年：13.1%）

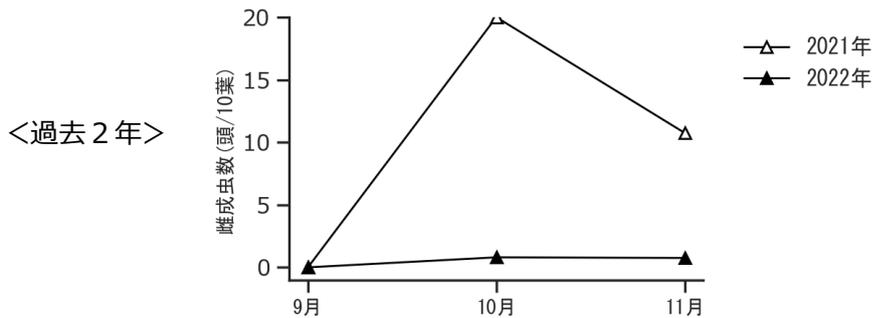
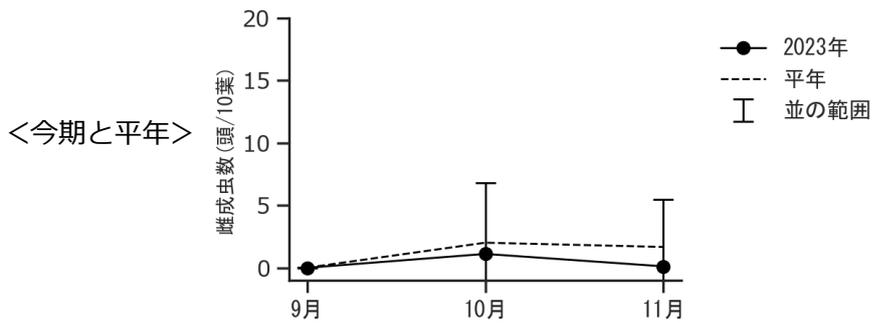
防除のポイント

- ・防除は成虫の出現初期から5～7日おきに実施する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報	11 月からの増減傾向	—	
	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ黄緑型
- ・発生ほ場率37.5% (平年：12.5%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。